

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年9月22日～2014年9月28日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年9月30日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼ハジンバ「大統領」が就任(25日)

・ラウル・ハジンバ氏が「第4代大統領」に就任。任期は5年。ソフミで行なわれた「就任式」での演説で、ハジンバ「大統領」は、国内の団結、根本的な変革、効率的な政府をつくるための憲法改革の必要性を訴えた。また、「アブハジアの安全保障と独立の保証者」たるロシアとの関係の重要性を強調し、今年末までにロシアとの統合をより深める合意に署名をする意向を改めて示した。

・「就任式」にはスルコフ露大統領補佐官が出席。「ス」補佐官は、露・アブハジア間で署名される合意について、「段階的に国境を開き、最終的には人や荷物の移動にいかなる障害もなくなる」「ロシアと同程度の年金をアブハジア住民にも支給するため、追加的な支援を行なう用意がある。アブハジアへの経済支援は合意への署名後、来年には倍増し、その後も増えるだろう」と発言。

・就任式にはニカラグアの環境・天然資源大臣、北オセチア共和国、カラチャイ・チェルケス共和国、カバルド・バルカル共和国の首長、ティビロフ「南オセチア共和国大統領」、ナゴルノ・カラバフの「議会議長」らも出席。

2. 外 政

▼マクヒュー米陸軍長官がグルジアを訪問(20日ー22日)

・「マ」米陸軍長官はウクライナを訪れた後、20日にトビリシに到着。ウクライナでは、西部でグルジアの歩兵小隊を含む15か国の部隊が参加して実施された訓練「Rapid Trident 2014」を視察した。訓練にはカパナゼ参謀総長も参加。22日、「カ」参謀総長はヘレテイ・ウクライナ国防相と二国間の国防協力の見通しについて会談した。

・トビリシで「マ」米陸軍長官は「ア」国防相と会談。両国間の防衛協力の強化、地域的な安全保障、ウクライナ情勢、中東情勢について議論。「ア」国防相は、「我々の二国間協力はグルジアの国防能力の強化を目指したものである」と述べた。

▼グルジアの対「イスラム国」連合への参加の可能性をめぐる報道(23日)

・23日、「Foreign Policy」が、匿名の米国高官の話として、対「イスラム国」連合への貢献の一部としてグルジアがシリア反政権派のための訓練センターの提供を提案したと報じた。

・23日夕、首相が委員長を務めるグルジア国家安全保障・

危機対応委員会は、報道の内容を否定し、「いかなる訓練センターの開設も、連合軍へのグルジア軍部隊の派遣も計画されていない」「対イスラム国連合へのグルジアの参加は人道ミッションにほぼ限定される」との声明を発表。

▼アラサニア国防相がアルメニアを訪問(24日)

・オハニャン・アルメニア国防相と会談。国防分野における二国間協力や地域的な安全保障に関する諸問題について議論。

▼グルジアが国連総会副議長国に(24日)

・24日、外務省はグルジアが開催中の第69回国連総会の副議長国になったと発表。副議長国の地位は一年間維持され、議長とともに総会の議題のとりまとめに参加する。26日には、パンジキゼ外相が国連総会議長と会談し、総会の枠内での予定について議論した。

▼パンジキゼ外相が各国外相と会談(24日)

・ガリバンヴィリ首相らとともにニューヨークを訪問中の「パ」外相は、バーンズ米国務次官らとともに「東方パートナーシップ」諸国外相会合に参加。地域情勢、ウクライナで進行中のプロセス、東方パートナーシップ諸国が直面している課題、EUとの協力などについて議論。

・24日、「パ」外相はヌーランド米国務次官補と会談。米側は、EUとの連合協定の実施に関心を示した。ウェールズでのNATO首脳会談、グルジアに特別なパッケージを与えるとのNATO決議およびその実施、地域的な安全保障、グルジア・露関係などについて議論。

・ニューヨークに滞在中、「パ」外相はその他、イタリア、ウクライナ、アラブ首長国連邦、ブータン、ウルグアイ、モザンビーク、エチオピア、ジャマイカ、ナイジェリア、ハイチ、トルクメニスタン、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島、アンドラ、モンテネグロ、キプロス、東ティモール、エリトリア、セルビア、トリニダード・トバゴ、コートジボアール、ギニアビサウ、アフガニスタン、ツバル、モーリタニア、セントクリストファー・ネイビスの外相と会談。

・アフマド・アフガニスタン外相との会談では、「ア」アフガニスタン外相がグルジアへのISAFへの貢献に感謝を述べた。人道・社会分野での今後の協力について協議。

▼ベナン共和国との外交関係の樹立(25日)

・ニューヨークにてパンジキゼ外相とベナンの国連大使が、グルジアとベナン共和国の外交・領事関係の樹立に関する議定書に署名。議定書によれば、互恵的な関係の構築を望む両国の関係は、国家主権、主権平等、領土一体性、国境不可侵の原則に基づくものとなる。

▼米政府がグルジア人を国際的テロリストに指定(26

日)

・米国内の資産凍結および米国人との商取引を禁じる国際的テロリストとして米政府が発表した21名の中に、グルジア人男性が含まれていることが判明。28歳のタルハン・バティラシヴィリ氏は、グルジア東北部出身で、「イスラム国」の主要な軍事司令官の一人。グルジアの一部のメディアは、他にもグルジア東北部出身の約50名がシリアでの戦闘に参加していると報じている。

▼GUAM外相会合(26日)

・ニューヨークにてGUAM外相会合が行なわれ、パンジキゼ外相、メメディアロフ・アゼルバイジャン外相、クリムキン・ウクライナ外相、ゲルマン・モルドバ外相、チェチェラシヴィリ GUAM 事務局長が出席。GUAM の枠内での協力に関する諸問題、GUAM 地域における紛争とその平和的な解決について協議。外相らは「GUAM+」のフォーマットでの主要なパートナー（米国、日本）や国際機関、地域的機関との協力を肯定的に評価。

・並行して第20回「GUAM+米国」会合が行なわれ、ルービン米国務次官補代理が出席。

▼グルジアが武器貿易条約に署名(26日)

・ニューヨークにてパンジキゼ外相が武器貿易条約(ATT)に署名。2013年に国連総会で採択されたATTは、世界における武器取引に一定の制限を課し、紛争地域への不法な武器の輸入を防止するもの。文書は批准のためにグルジア国会に提出される。

▼ガリバシヴィリ首相が国連総会に出席(26日)

・23日、国連気候変動サミットで演説。2050年までにグルジアはカーボンニュートラルを目指すとして宣言。

・26日、国連総会で演説。グルジアは20年前と比べても、あるいは2年前と比べてさえ生まれ変わったとして、法の支配と民主主義を通じて社会を一つにすることが目標であると強調。外交政策においては、EU・NATO加盟を追求しつつ、安全保障を享受するだけでなく、提供者として世界の安全保障に貢献する意思があると述べた。また、グルジアにとって最も大きな問題として国内避難民・難民の問題を挙げ、アブハジア・南オセチア住民に和解と共栄を呼びかけた。ロシアに対しては2008年の停戦合意の履行と緊張の解消に向けた協力を求めた。更に、地理的条件を活用して、グルジアはシルクロードの復活に貢献する意思があるととして、グルジアで「シルクロード・フォーラム」を開くことを提案。

・国連総会への出席に並行し、ベルズインシュ・ラトビア大統領、エルドアン・トルコ大統領、ロウハニ・イラン大統領、ハーパー・カナダ首相、アル・サバフ・クウェート首相、ファイサル・サウジアラビア外相と会談。「エ」トルコ大統領との会談では、相互投資保護協定の早期の署名や南コーカサスのパイプラインの重要性につ

いて議論した。

・ファン・ロンパイ欧州理事会議長とも会談。EU・グルジアの連合協定で規定された改革の実施プロセスについて議論した。「ファ」議長は、9月1日に暫定的に発効したDCFTAの進捗に関心を示した。

▼マルグヴェラシヴィリ大統領がトルコを訪問(28日-29日)

・28日、エルドアン・トルコ大統領と会談。戦略的パートナーとしてのグルジア・トルコの二国間・多国間協力の展望や地域の安全保障、グルジア・トルコ・アゼルバイジャンの共同プロジェクト、ウクライナ情勢、ISISに関連する安全保障の諸問題などについて議論。「エ」トルコ大統領はグルジアの領土一体性・主権およびNATO加盟への支持を改めて表明。

・黒海経済協力機構(BSEC)事務総長とも会談。

・29日、イスタンブールで開催中の世界経済フォーラムで演説。欧州との統合というグルジアの歴史的な選択に焦点を当てつつ、その道りにおけるグルジアの達成について報告した。また、グルジアの欧州との統合は、グルジアのみならず、コーカサス、カスピ海地域、黒海地域全体の発展の機会をつくりだすだろうと述べた。

3. 経 済

▼トビリシ=アブダビ間の直行便の就航(21日)

・アラブ首長国連邦のEtihad Airwaysが、10月2日よりトビリシ=アブダビ間の直行便の運航を開始すると発表。週3便。

▼グルジア国立銀行が政策金利を据え置き(24日)

・グルジア国立銀行の金融政策会合が開かれ、政策金利を4.0%のままに据え置くことを決定。インフレ率や経済活動の動きに応じて徐々に引き締める予定であるが、当面は経済状況および地政学的要件により金融緩和を維持する必要があるとのコメントを発表。

▼2014年1月~7月の貿易収支(25日)

・国家統計局が発表。貿易額7,411百万ドル(前年同期比12%増)、輸出額1,914百万ドル(同9%増)、輸入額5,497百万ドル(同13%増)。貿易収支は3,584百万ドルの入超。

・貿易相手国の内訳はCIS諸国31%、EU諸国26%、その他43%。国別では貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、中国、ロシア、ウクライナ、アルメニア、米国、ドイツ、ブルガリア、日本。日本は第7位の輸入相手国(輸入額224百万ドル)。